

経 済 水 道 委 員 会 資 料

(追 加)

目 次

<水道事業会計>

	ページ
1 配水管の状況について.....	1
2 配水管の耐震性について.....	3

<下水道事業会計>

3 名古屋駅周辺の雨水調整池について.....	5
4 堀川及び新堀川の吐口について.....	7

<共 通>

5 上下水道工事に伴う支障移設について.....	8
--------------------------	---

平成30年3月15日

上 下 水 道 局

1 配水管の状況について

(1) 配水管の管種と延長

(平成28年度末)

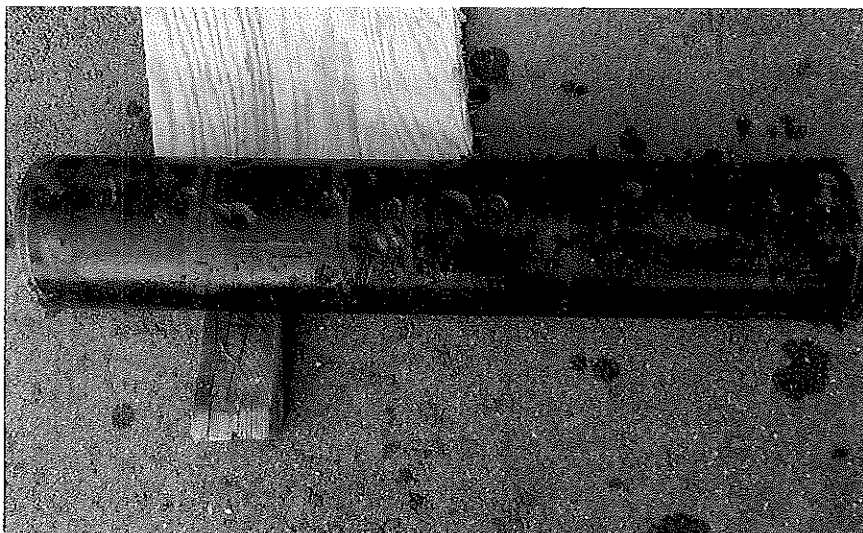
管 種	延長 (km)	割合 (%)	布設時期
鑄鉄管 (FC 管)	2	0.0	昭和8年度 ～昭和44年度
ダクタイル鑄鉄管非耐震形 (A形等)	1,693	20.2	昭和33年度 ～昭和59年度
ダクタイル鑄鉄管耐震形 (GX形、NS形、K形(注)等)	3,771	45.0	昭和46年度～
硬質塩化ビニル管	1,885	22.5	昭和30年度 ～平成14年度
水道用ポリエチレン管	827	9.9	昭和51年度 ～平成24年度
配水用ポリエチレン管	134	1.6	平成25年度～
その他	64	0.8	—
計	8,376	100	

(注) K形については、南海トラフ巨大地震(過去の地震を考慮した最大クラス)に対して良好な地盤下において耐震性を有する管

(2) 腐食した配水管の状況



口 径：100mm
管 種：ダクタイル鋳鉄管（A形）



口 径：100mm
管 種：ダクタイル鋳鉄管（A形）

2 配水管の耐震性について

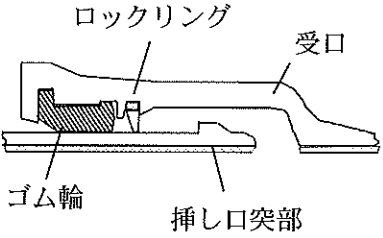
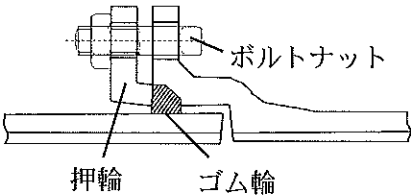
(1) 配水管の耐震性

管 種	耐震性 (注1)
ダクタイル鋳鉄管 (GX 形、NS 形等)	○
ダクタイル鋳鉄管 (K 形)	○ (注2)
ダクタイル鋳鉄管 (A 形)	×
配水用ポリエチレン管	○
水道用ポリエチレン管	○ (注2)
硬質塩化ビニル管	×

(注1) 南海トラフ巨大地震 (過去の地震を考慮した最大クラス) に対する耐震性

(注2) 良好な地盤下において耐震性を有する管

(2) 継手の構造 (ダクタイル鋳鉄管)

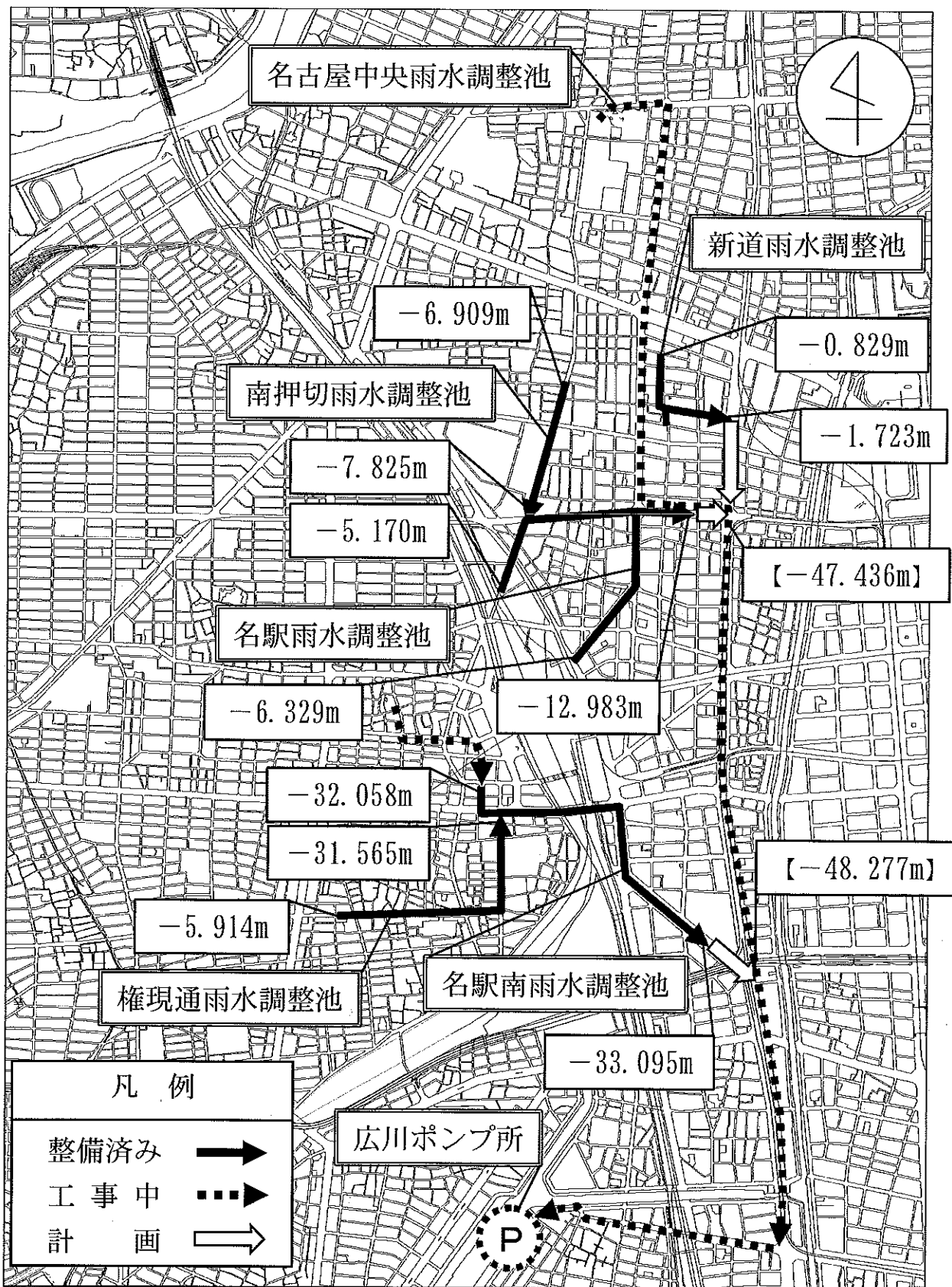
種類	構造図	特徴
GX形		<p>伸縮性能があり、更に離脱防止機構を有するので、大きな地盤変動に対応できる。</p>
A形		<p>継手部の伸び、屈曲によりある程度の地盤の変動に対応できる。</p>

3 名古屋駅周辺の雨水調整池について

(1) 整備済みの雨水調整池

名 称	貯留量 (m^3)	管 径 (m)	延 長 (m)	工事費 (億円)
新道 雨水調整池	1,000	1.20~1.80	530	5.5
南押切 雨水調整池	1,700	1.65~1.80	670	5.3
名駅 雨水調整池	7,700	1.50~3.00	1,730	25.0
名駅南 雨水調整池	18,300	4.25	1,300	43.6
権現通 雨水調整池	5,400	1.80~2.95	1,060	30.3

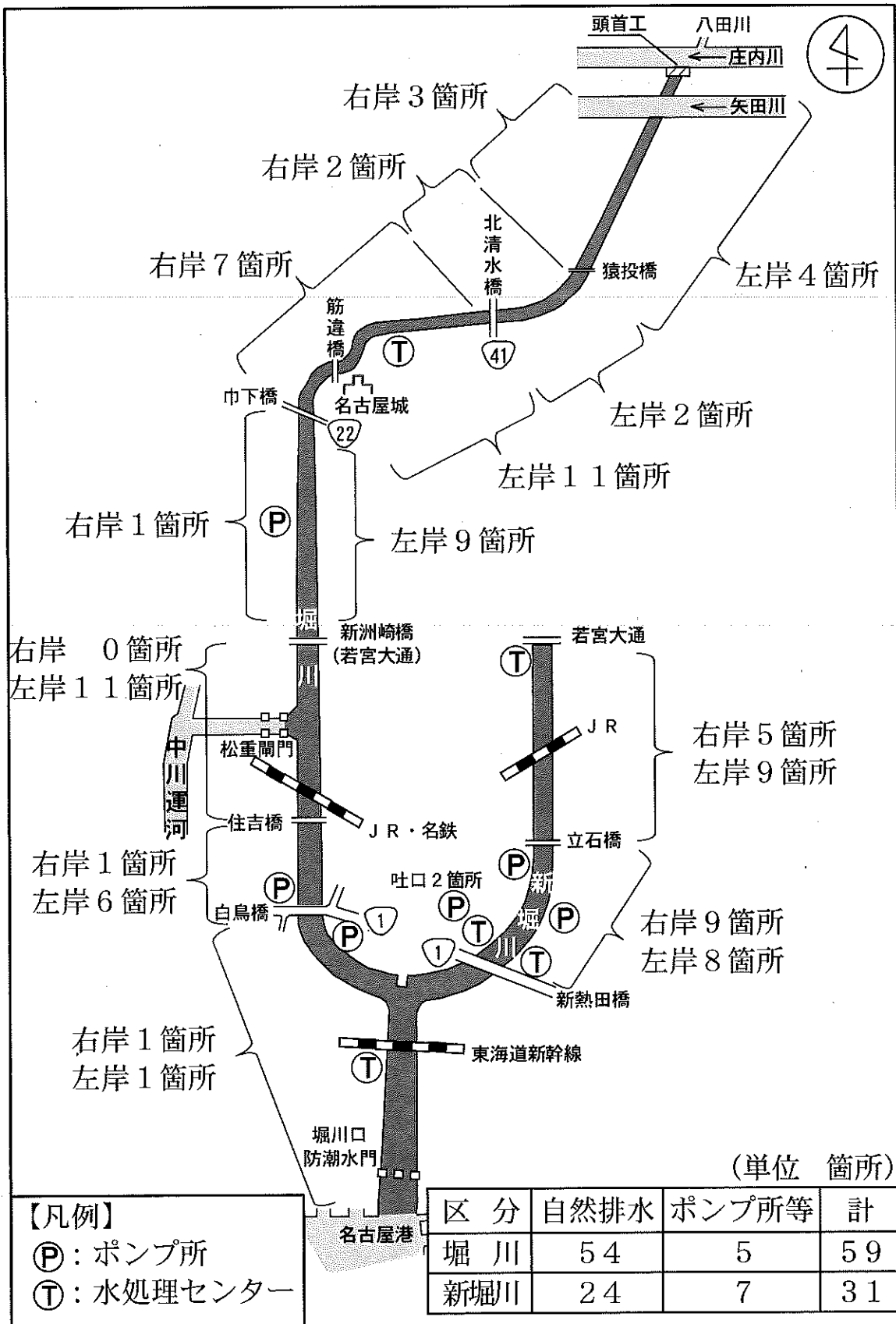
(2) 位置図



(注1) 図面上の数値は名古屋港基準面を基準とした管底高を示す。

(注2) 【】内の数値は、名古屋中央雨水調整池の接続位置での予定管底高を示す。

4 堀川及び新堀川の吐口について



5 上下水道工事に伴う支障移設について

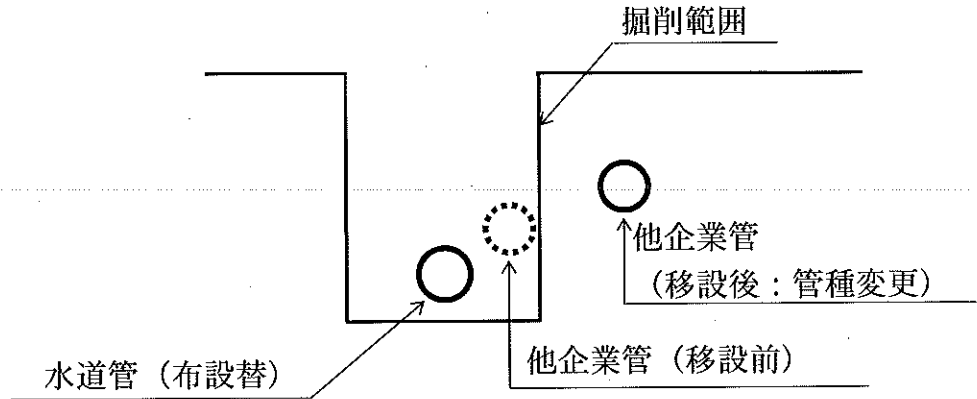
(1) 移設工事の費用

(平成28年度、単位 千円)

順位	水道	下水道
1	72,105	31,849
2	37,224	31,290
3	35,775	28,203
4	21,591	24,141
5	18,574	21,810
6	15,330	20,462
7	13,768	18,546
8	13,578	18,365
9	13,551	18,227
10	13,092	17,127

(2) 移設工事の事例

- ① 水道管の布設替工事にあたり、他企業管が掘削範囲に入るため移設工事を行った事例



- ② 下水管の新設工事にあたり、他企業管が影響範囲（掘削の影響により移設が必要となる範囲）に入るため移設工事を行った事例

